

## 母乳をやる以外は できることを全部したかった

平川 邦明さん(31)

株式会社サガテレビ  
育休取得期間 第1子(女)2週間



一取得の理由を教えてください。

妊娠が分かった後、夫婦でプレママ&パパサロンに参加しました。もうすぐ親になる人向けの子育て支援教室で、講話を聞いたり、妊婦体験をしたりしました。その中で「産後のダメージは、交通事故に遭い全治2か月の状態と同じ」と聞いて驚きました。2か月絶対安静の状態なのに、家事をさせるわけにはいかないと強く思い育休を取得しました。母乳をやるなどママにしかできないことはありますが、それ以外の料理・掃除・洗濯などパパにできることはきっちりに行い、ママの負担軽減をしたいと思いました。育休のスタートは、出産1か月後です。

一なぜ、そのタイミングでの取得ですか？

仕事との兼ね合いも考えたうえで、妻と相談して育

休取得時期を決めました。秋は、唐津くんちやパルーンフェスタの特別企画、そのほか各スポーツの実況があるなど、アナウンサーにとって繁忙期です。それを踏まえ、忙しさが落ち着いた11月中旬頃に育休を取ろうと考えました。産後すぐの1か月間は、家族3人で妻の実家に里帰りし、私の育休スタートを自宅に戻るきっかけとしました。

一勤務先の反応はどうでしたか？

妊娠が分かった際、すぐに上司に報告し、育休取得の意向を伝えました。既に男性社員の育休取得事例があったので、反対の声はありませんでした。スムーズに取得に至りました。また、社内からは「良いことだね！これからはパパもどんどん育休取るべき」「育休中、何をしたら発信しなきゃね」などと声をかけられました。

一育休中の様子を詳しく教えてください。

「母乳をやる以外、できることをする」と意気込み、掃除、洗濯、料理、沐浴の補助などをしました。特に力を入れたのは料理。育休明け、妻が料理しなくていいように、おかずの作り置きに挑戦しました。今は週末にまとめて5~6品を作り置きしています。10年間1人暮らしをしていましたが、2週間で家事レベルはぐっと上がりました。また、赤ちゃんとずっと一緒にいることで、赤ちゃんの生活リズムに慣れることができ、とても良かったです。紙おむつを洗濯するうっかりミスもありましたが、良い思い出、良い経験です。

一育休復帰後の家事育児分担はどのようにしていますか？

育児は妻中心となっていますが、それ以外の料理・洗濯・掃除などは積極的にを行っています。特に料理は、朝ご飯・弁当作りにも慣れてきて、生活リズムもできてきました。妻の昼ご飯と夫婦の夜ご飯は、作り置きがメインになるのでレパートリーを増やしたいですね。妻の職場復帰の際もそうですが、娘の成長に合わせて、生活リズムややるべきことが変わっていくので、その都度、家族で話し合いながら、今しかできない子育てを楽しんでいきたいです。



一復帰後の働き方や意識に変化はありましたか？

意識的なものですが、自分が使う言葉や振る舞い、行動が「子どもに見られても恥ずかしくないか、自慢できるものか」と、これまで以上に考えるようになりました。そして何よりも、原動力が増えました。結婚したときは妻の存在が原動力となっていたのですが、それに娘が加わり、エネルギーが2倍・3倍になった気がします。気力・体力が底をついた時に家族のことを考えると「よーし！もうひと踏ん張りだ！」と力が湧いてきます。

一これから取得する人へアドバイスをお願いします。

赤ちゃんは、2週間でも驚くほど成長しました。それを間近で見られたのは育休を取ったからこそです。妻は「一緒にいてくれたから気が楽だった」と不安が軽減されたと話していました。育休取得はいいことばかりです。会社に感謝です。また、育休は“ママをサポートするだけの期間”ではなく、“子どもの今後を考える期間”だとも感じました。保育園はどこに？入園時期は？小児科はどこに？など検討すべき事がたくさんあります。一生でみれば、ほんの少しだけの赤ちゃんとの生活を楽みつつ、子どもの事をいっぱい考える充実した時間を過ごしてほしいです。